

第 60 回日本生殖医学会学術講演会及び IFFS/JSRM International Meeting 2015(国際生殖医学会学術集会 2015)が 4 月 26 日～29 日の 4 日間、横浜で開催されました。

当院からは院長、培養士 3 名が参加しました。

最近、ニュースで耳にすることも多くなった着床前遺伝子診断(PGD)や着床前遺伝子スクリーニング(PGS)についての報告も多々見受けられました。当院でも導入しているタイムラプスモニタリングシステム(胚の連続観察システム)についての報告もありました。最新の機器を導入することはもちろん重要ですが、一番大切な事は導入した後だと思いました。検討を幾度となく重ねて胚の評価基準を当院独自にカスタマイズし、進化し続けることの大切さを実感しました。

また、少し前に海外での代理母出産がテレビをにぎわせていましたが、現在、海外では子宮移植によって、妊娠・出産に至った症例が報告されています。臓器移植の観点から不妊治療を考えるとという発想が斬新だと思いました。日本では、臓器移植は命のリレーとして行われていますが、海外で行われている子宮移植は次世代への命のリレーだと受け取ると、感慨深いものがあります。

国際学会には、初めて参加させていただきましたが、英語での発表・討論をきいて、モチベーションがとても上がりました。次回参加する時は発表演者として参加できるように、自分の知識・英語力のスキル磨きに努めたいと思います。

学会会場が横浜だったということもあり、学会終了後に中華街でリフレッシュすることもできました。

今後も、学会に参加して得た最新の知見をラボにリアルタイムに反映させ、進化し続けるラボを維持していきたいと思います。

培養士 貴志瑞季